

再評価を実施する事業の一覧表(平成18年度第1回)

部局名:土木部 道路事業

番号	事業名	事業主体種別	路線名・河川名等 事業箇所名	事業採択年度	事業経過年数	再評価の分類	対応方針(案)	長期化又は未着工の理由	現状の課題	備考
101	国庫補助 道路改築事業	栃木県	一般国道123号 茂木バイパス	平成4年度	15年	4	継続	3期工区内の区画整理事業が 中止になったため	特になし	
102	国庫補助 道路改築事業	栃木県	一般国道293号 鹿沼南バイパス	平成9年度	10年	2	継続	特になし	特になし	

注)再評価の分類

- 1 = 事業採択後一定期間を経過した時点で未着工の事業【実施要領:第4-1-(1)】
- 2 = 事業採択後長期間が経過した時点で継続中の事業【実施要領:題4-1-(2)、第4-2-(1)、第4-3-(1)】
- 3 = 準備・計画段階で一定期間が経過している事業【実施要領:第4-1-(3)】
- 4 = 再評価実施後一定期間が経過している事業【実施要領:第4-1-(4)】
- 5 = 社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業【実施要領:第4-1-(5)、第4-2-(2)、第4-3-(

## 再評価実施事業概要書

( )は前回再評価時

再評価実施事業概要書		番 号	101
( )は前回再評価時		事業主体	栃 木 県
事業名	国庫補助 道路改築事業	事業所管部課	土木部 道路建設課
路線名	一般国道123号	事業箇所名	茂木バイパス 茂木町
起 終 点	自:芳賀郡茂木町十石 至:芳賀郡茂木町増井	事業延長	3,700m
事業採択年度	H4	用地着手年度	H5
		工事着手年度	H6
		部分供用年度	H8.H12. H17
事業期間	(H18) H4~H20	事業進捗状況	執行済事業費 (54.4) (64) 91.9億円 進捗率88% (11.6) (66) うち用地補償費 18.6億円 進捗率83%
全体事業費	(85.0) 105.0億円		
うち用地補償費	(17.6) 22.5億円		
事業の目的	<p>一般国道123号は、栃木県宇都宮市を起点とし、茨城県水戸市に至る延長約71kmの幹線道路である。茂木バイパスは、常陸那珂港へのアクセス強化及び「道の駅もてぎ」や「ツインリンクもてぎ」を中心とする地域振興プロジェクトの支援等を目的とした4車線道路である。</p> <p>茂木町は古くからの城下町であり、市街地の現道は屈曲部が多く、歩道が狭小であるため事故が多く発生している。さらに真岡鐵道の踏切があることから、朝夕の通勤通学時、行楽シーズン中において慢性的な渋滞が発生している。</p> <p>本バイパスを整備することにより、市街地における安全で円滑な交通を確保し、県東部地域の経済産業活動の支援を目的とする。</p>		
事業の進捗状況等	<p>事業の進捗 全体延長3.7kmのうち1期工区(L=1.5km)を平成12年10月に、また、2期工区(L=1.4km)を平成17年10月に整備完了し供用を図ったところである。事業中の3期工区(L=0.8km)は、今年度用地買収を完了し工事推進を図る予定。</p> <p>遅延した理由 3期工区内で実施予定であった区画整理事業が中止になったため、当該工区に関する測量・設計等の着手が遅れたことによる。</p> <p>事業費が増加した理由(総額20億円) 【工事費】 ・計画及び基準等の変更 ・施工方法の変更 ・環境及び景観への配慮による変更 ・関係機関からの協議調整による変更 等</p> <p>【用地補償費】 ・建設リサイクル法施行に伴う評価基準の変更 ・区画整理事業の中止による用地面積・補償物件の増加 等</p> <p>今後の予定 市街地における安全で円滑な交通の確保について茂木町から強く要望されている。 残る用地について、今年度中に取得完了できるよう鋭意努力し、取得契約が完了した区域から順次工事を実施して、本バイパスの平成20年度暫定2車線完成に努める。</p>		
事業の対応方針(案)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現計画で事業を継続する。</li> <li>・平成20年度に暫定2車線で全線供用を図る。</li> </ul>		
コスト削減等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発生岩砕を路床材として有効活用し工事コストを低減</li> <li>・小規模河川の渡河形式にボックスカルバート採用し工事コストを低減</li> <li>・逆川大橋上部工に耐候性鋼材を採用しライフサイクルコストを低減</li> <li>・根株をチップ化し吹き付け材料に利用することで社会的コストを低減</li> <li>・再生骨材、再生アスファルト合材を積極活用し社会的コストを低減</li> </ul>		
費用対効果分析の変化	全体区間L=3.7Kmの費用便益	未供用区間L=0.8Kmの費用便益	
	便益額(B)283(282)億円 費用(C)133(97)億円 (2.9) B/C=2.1 とともに暫定2車線時	事業全体	便益額(B)74.9億円,費用(C)21.2億円 B/C=3.5
		残事業	便益額(B)74.9億円,費用(C)14.7億円 B/C=5.1





写真1: 踏切による渋滞状況



写真2: 市街地内の渋滞状況



写真3: 供用区間状況(2期工区)

## 再評価実施事業概要書

再評価実施事業概要書				番 号	102		
				事業主体	栃 木 県		
事業名	国庫補助 道路改築事業			事業所管部課	土木部 道路建設課		
路線名	一般国道293号			事業箇所名	鹿沼南バイパス 鹿沼市、西方町		
起 終 点	自:鹿沼市榆木 至:上都賀郡西方町金崎			事業延長	4,860m		
事業採択年度	H9	用地着手年度	H12	工事着手年度	H9	部分供用年度	H12
事業期間	H9～H23			執行済事業費	33.7億円 進捗率47%		
全体事業費	72.0億円			うち用地補償費	16.5億円 進捗率85%		
うち用地補償費	19.3億円			事業進捗状況			
事業の目的	<p>一般国道293号は、茨城県日立市を起点とし、栃木県足利市に至る延長約169kmの幹線道路である。本路線は栃木県西部を南北に結ぶ広域幹線道路の一部に位置付けられ、観光産業や広域的な交流の支援、北関東自動車道路（都賀IC）へのアクセスによる広域的物流機能の強化、及び沿線住民の生活や地域経済産業活動を支える重要な路線である。</p> <p>当該バイパスの現道部については、車道幅員の狭隘区間や屈曲部が多いことから、1期工区終点部の小倉橋付近に代表される朝夕の交通渋滞が慢性化しており、また、事故の発生件数も多く安全確保が課題となっている。</p> <p>本バイパスを整備することにより、安全で円滑な交通を確保し、県西部地域の経済産業活動の支援を目的とする。</p>						
事業の進捗状況等	<p>事業の進捗</p> <p>全体区間のうち主要渋滞ポイントである小倉橋東交差点を含む終点側の約2km区間については、平成13年3月までに整備を完了し、交通渋滞の解消を図った。残区間については、圃場整備事業に合わせて用地取得を推進するとともに一部工事を進めている。</p> <p>今後の予定</p> <p>残用地の取得契約に努めるとともに、取得契約の完了した区間から順次工事を実施し、本バイパスの平成23年度暫定2車線の完成に努める。</p>						
事業の対応方針（案）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現計画で事業を継続する。</li> <li>・平成23年度に暫定2車線で全線供用を図る。</li> </ul>						
コスト縮減等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建設発生土を盛土材に有効再利用し工事コストを低減</li> <li>・再生骨材、再生アスファルト合材を積極活用し社会的コストを低減</li> </ul>						
費用対効果分析の変化	全体区間L=4.86Kmの費用便益			未供用区間L=2.9Kmの費用便益			
	便益額(B)212.2億円 費用(C)76.1億円 B/C=2.8			事業全体	便益額(B)158.4億円,費用(C)56.7億円 B/C=2.8		
	ともに暫定2車線時			残事業	便益額(B)158.4億円,費用(C)33.7億円 B/C=4.7		





写真1:小倉橋付近(整備前)の渋滞状況(H10頃)



写真2:2期工区の状況



写真3:小倉橋付近の供用状況